
第五次多摩市総合計画基本構想策定にかかわる市民参画事業

実施結果のあらまし

—平成 20 年度—



多 摩 市

第五次多摩市総合計画基本構想策定にかかわる市民参画事業

実施結果のあらまし ―平成 20 年度― について

平成 23 年度から、第五次多摩市総合計画（以下、総合計画）に基づく、多摩市のまちづくりが始まります。総合計画は、多摩市が策定するあらゆる計画の最上位に位置づけられる重要な計画であり、その策定は、平成 20 年度から平成 22 年度までの 3 カ年かけて行います。平成 20 年度は、総合計画を構成する基本構想（平成 23 年度から概ね 20 年間の目指すべきまちの姿を定めたもの）の策定に必要な市民の皆さんのご意見等の収集や整理分析に取り組みました。

本書は、基本構想の策定にあたり、多くの市民の皆さんから、まちに寄せる様々な想い（イメージ）や意見を集めるために、平成 20 年度に実施した市民参画事業の結果のあらましです。主として、多摩市の強み・弱み、多摩市の目指すべきまちの姿について、ご意見をいただきました。これらは、市民の皆さんと共有すべき財産であるとともに、総合計画の策定における貴重な資料であることから、あらましにしてまとめました。

平成 16 年 8 月 1 日に施行された多摩市自治基本条例は、私たちのまちの自治について、最も基本的な理念及び行動原則を定めています。この条例では、市の重要な計画の策定において、アンケート、ワークショップなどの市民参画制度の実施を規定し、市民の皆さんに対して、主体的にまちづくりにかかわることができる保障をしています。今後も、自治基本条例に基づく市民参画制度を実施し、総合計画の策定を進めていきます。本書が総合計画に関心を持つきっかけになり、さらに多くの方々がまちづくりに参加することを願っています。

目 次

序. はじめに	1
1. 市民アンケート実施結果のあらまし	3
2. 市民ワークショップ実施結果のあらまし	12
3. 大学生懇談会実施結果のあらまし	16
4. 市民団体提案実施結果のあらまし	20



序-1 総合計画とは

多摩市では、新しいまちづくりを進めるための指針となる「第五次多摩市総合計画」を策定することとなりました。

総合計画とは、まちづくりの基本となる計画で、多摩市にある様々な行政計画（環境基本計画、子育て・子育て・こどもプランなど）の中で最上位に位置づけられる計画です。別の言葉で言い換えると「多摩市のまちの将来設計図」であると言えます。

【総合計画策定の根拠法令】地方自治法(第二条4項)

「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」

序-2 「第五次多摩市総合計画」の構成

「第五次多摩市総合計画」は、基本構想と基本計画の2層で構成します。基本構想は今後20年について、基本計画は今後10年を想定しております。

基本構想、基本計画の内容は、図1に示す通りです。

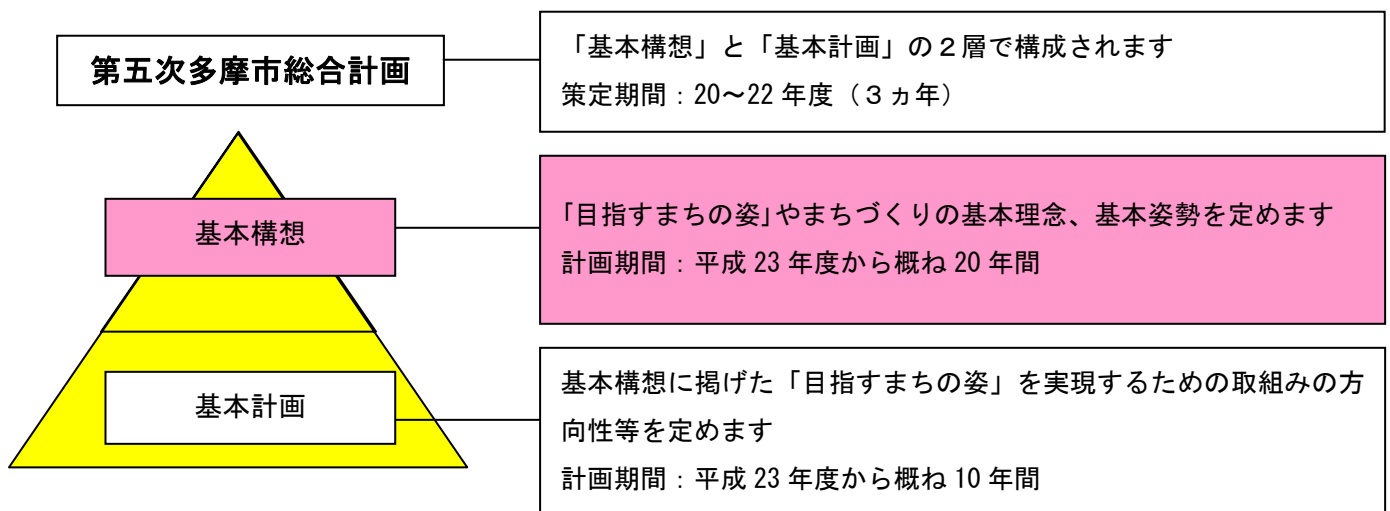


図1 「第五次多摩市総合計画」の構成

今回の市民参画事業は、「第五次多摩市総合計画」の基本構想の策定に当たり、市民の皆さんからご意見を頂いたものであり、平成21年度からはじまる「第五次多摩市総合計画」の基本構想を検討・審議するための重要資料として取り扱います。

「第五次多摩市総合計画」の策定スケジュールは、図2に示す通りです。

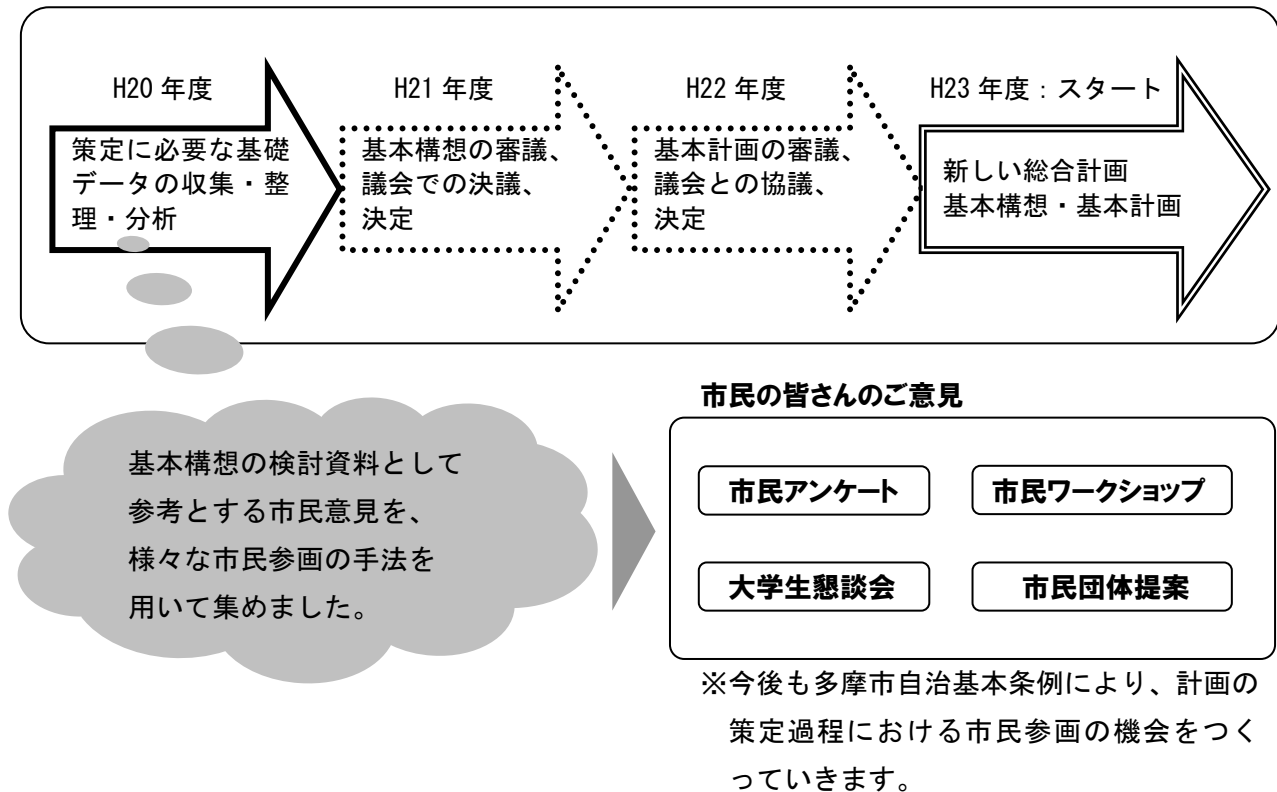


図2 「第五次多摩市総合計画」の策定スケジュール

1

市民アンケート実施結果のあらまし

1-1 調査の概要

新しい基本構想の策定にあたり、市民の皆様のご意見をお聞きし、その声を基本構想に反映させるため、市民アンケートを実施しました。

対象者は、表 1 に示すように市内にお住まいの小学生、中学生、高校生、18 歳以上の方と、幅広い年代の方からご意見をお聞きしました。

実施概要を以下に示します。

表 1 アンケート実施概要

対象者		実施日	抽出方法	配布・回収方法	回答枚数 (回収率)
市民 3,528人	小学生 (5・6年生)	平成20年 10月15日～24日	全学校の特定のク ラスの生徒	学校で配布・回収	759枚 (82%)
	中学生		全学校の特定のク ラスの生徒	学校で配布・回収	
	高校生世代 ※H2.4.2～H5.4.1生まれ	平成20年 11月14日～30日	無作為抽出	郵送で配布・回収	138枚 (23%)
	18歳以上 ※H2.4.1以前生まれ	平成20年 10月16日～27日	無作為抽出	郵送で配布・回収	781枚 (39%)

～次ページ以降の「調査結果の概要」をご覧くださいにあたっての注意事項～

- 注1) アンケート結果の図中に「n=759」等と表記されているものは、設問の回答者数を示しています。
- 注2) 集計にあたっては、調査の内容も異なることから「小・中学生」「高校生」「18歳以上」の3分類で集計をしています。図タイトルにどの分類かを明記しています。

1-2 調査結果の概要

多摩市の好き嫌い、定住意向

■■多摩市のことが好きな小・中学生が多い。また、高い定住意向■■

- ・「小・中学生」の約90%が、多摩市のことを好き（「とても好き」「まあまあ好き」の合計）と回答しています。
- ・「高校生」「18歳以上」ともに、70%以上の方が、住み続けたい（「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」の合計）と回答しています。
- ・「18歳以上」について、年代別の定住意向をみると、年代が上がるにつれて定住意向が高くなる傾向にあります（「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」の合計）。

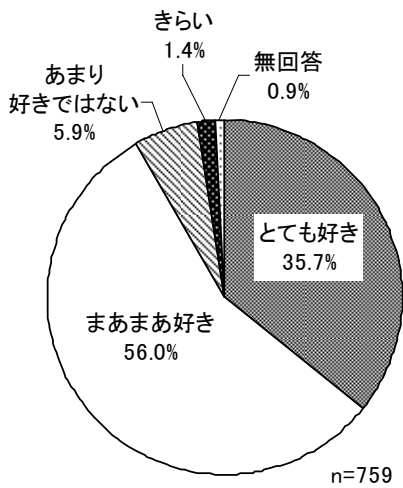


図3 好き嫌い(小・中学生)

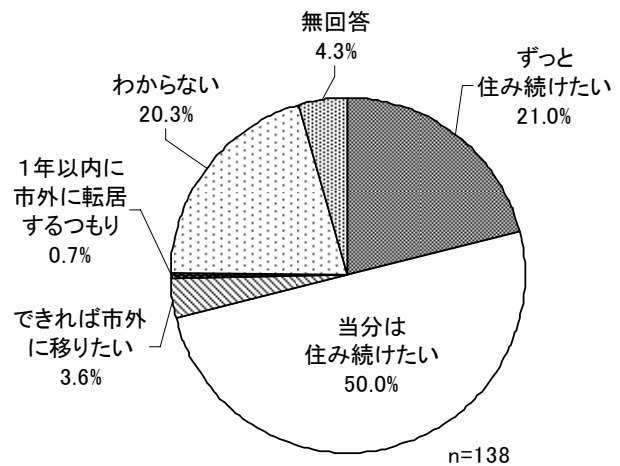


図4 定住意向(高校生)

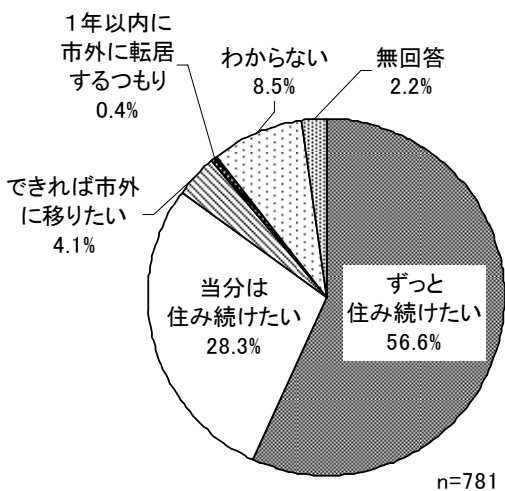


図5 定住意向(18歳以上)

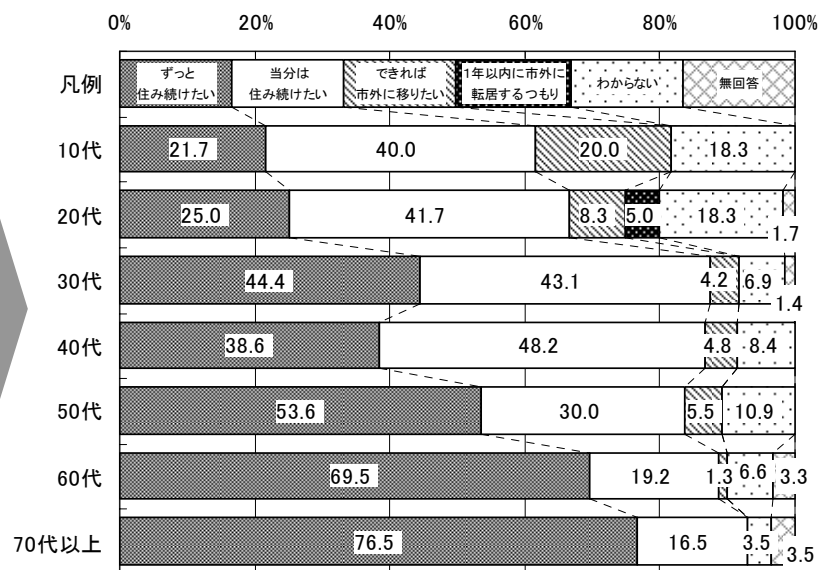


図6 年代別の定住意向(18歳以上)

多摩市のイメージ

■■多摩市は「落ちついたまち」「清潔なまち」「安心・安全なまち」のイメージが強い■■

・多摩市のイメージを表す言葉を一対比較した中で、「かなりそう思う」「ややそう思う」の合計が多かった言葉としては、「高校生」「18歳以上」とともに「落ちついたまち」「清潔なまち」「安心・安全なまち」のイメージが強い傾向となっています。

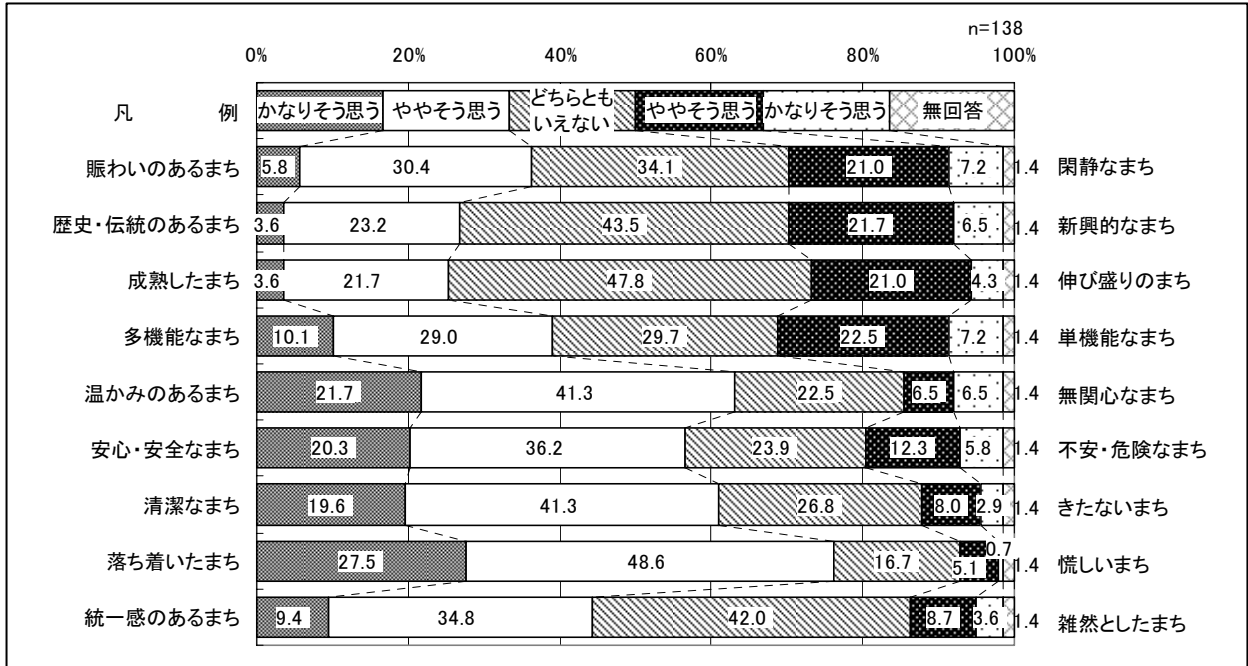


図7 現在の多摩市のイメージ(高校生)

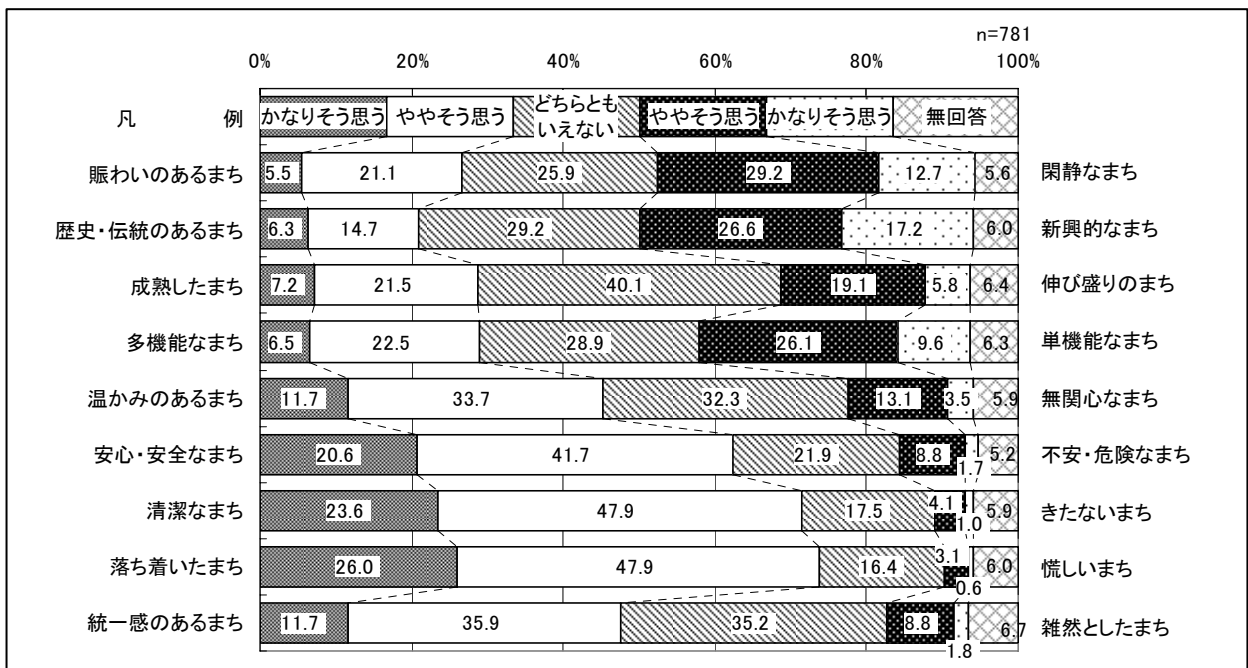


図8 現在の多摩市のイメージ(18歳以上)

■■多摩市の「好きなおところ」や「良いところ」は自然環境の良さ■■

- ・「小・中学生」の多摩市の好きなおところは「自然や緑がたくさんあるところ」「友達と遊べる場所がたくさんあるところ」「お祭りやイベントがたくさんあって、にぎやかなところ」となっています。
逆にきれいなところは「ゴミがたくさんあって、町がきたないところ」「交通事故や犯罪が多いところ」となっています。
- ・「高校生」が多摩市の良いところとして感じる点は「自然環境に恵まれている」「交通の便が良い」となっています。
逆に悪いところとして感じる点は「買い物に不便」「働く場が少ない」となっています。
- ・「18歳以上」が多摩市の良いところとして感じる点は「自然環境に恵まれている」「生活環境が良い（ごみ収集、上下水道整備等）」となっています。
逆に悪いところとして感じる点は「働く場が少ない」「地域のコミュニティが弱い」となっています。

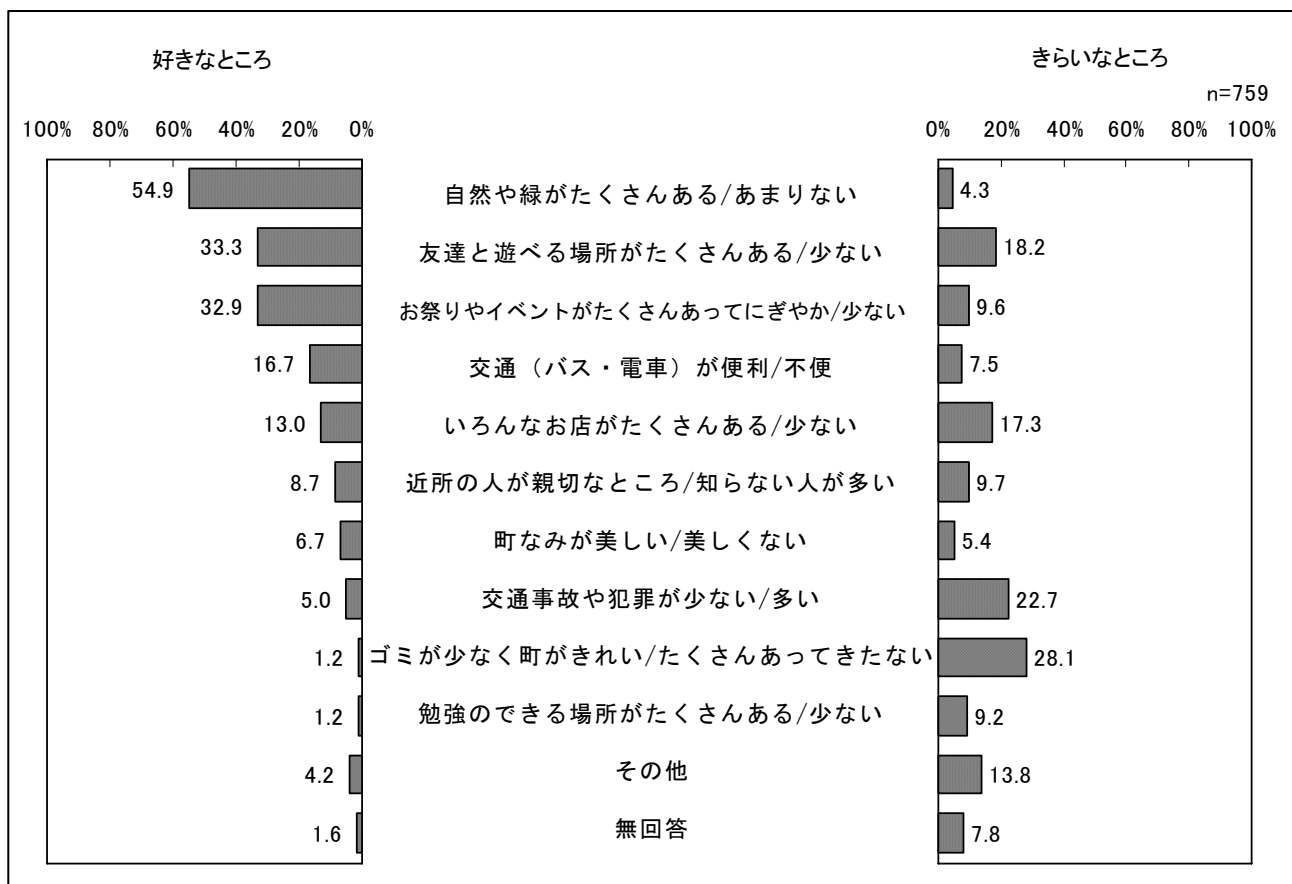


図 9 多摩市の好きなおところ、きれいなところ(小・中学生)

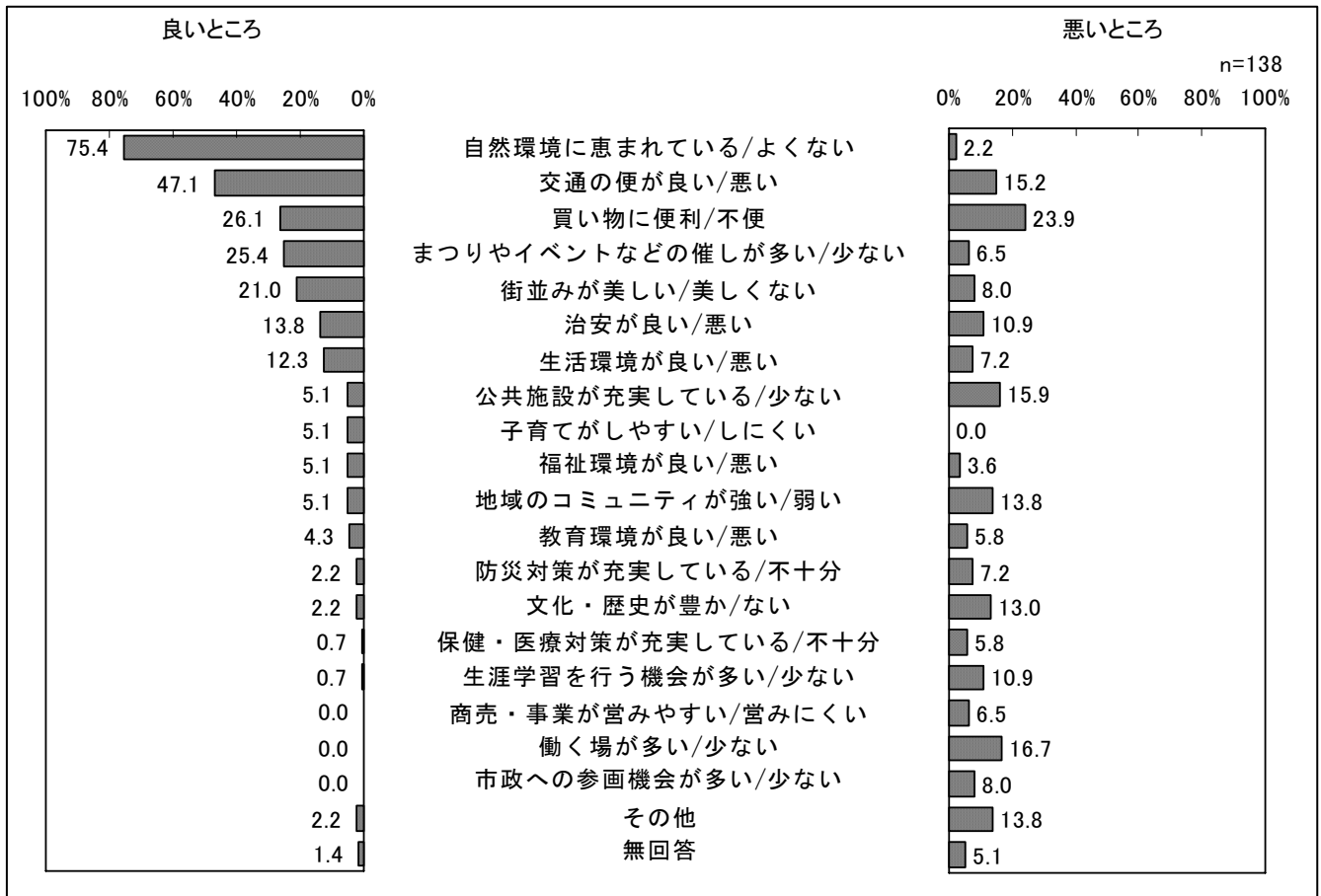


図 10 多摩市の良いところ、悪いところ(高校生)

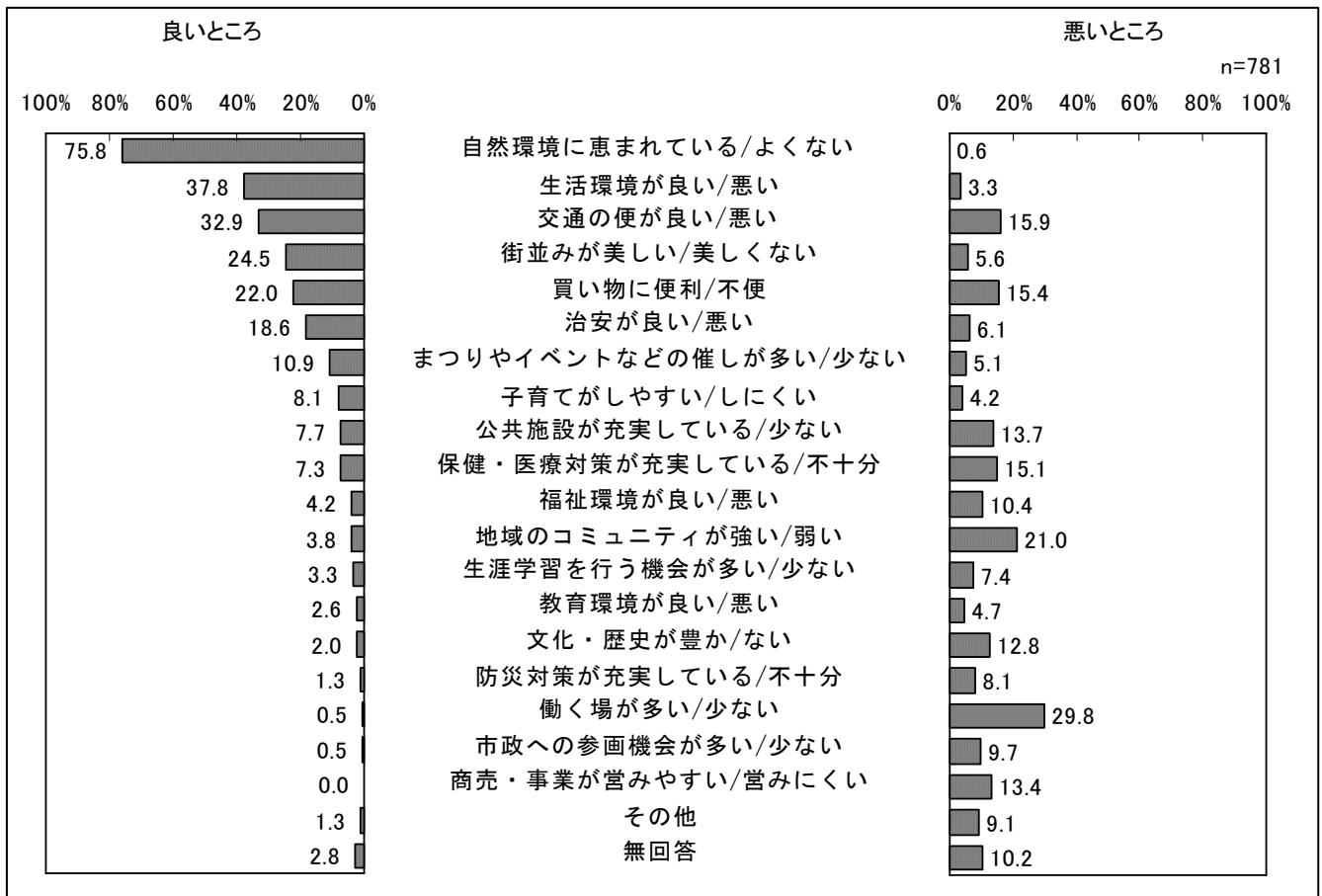


図 11 多摩市の良いところ、悪いところ(18歳以上)

～ 将来の多摩市のキャッチフレーズ(高校生、18歳以上)～

■■キーワードとしては「自然環境」に関するものが最も多く、次いで「安全安心」が多くなっています■■

市民の皆さんからこんなキャッチフレーズが寄せられました。※一部抜粋してお示しをしています。

- ★ 人と自然が笑うまち
- ★ 安心安全まあるいTAMA
- ★ 安心できるコミュニティの創造
- ★ 自然との共生 いきいき多摩
- ★ 多摩の自然と共生する安心安全のまち
- ★ 多世代 安心安全 生活都市

多摩市の将来の姿、今後のまちづくりで大切にしてほしいこと

■■「自然環境」や「安全・安心」に対するニーズが高くなっています■■

- ・大人になった時、多摩市がどんな町になっていたら良いと思うかについて、「小・中学生」は「自然や緑がたくさんある町」「交通事故や犯罪が少ない町」「地震などの災害に強い町」「ゴミの少ないきれいな町」と回答しています。
- ・今後のまちづくりで特に大切にしたいこととして、「高校生」「18歳以上」で、1位と2位の順位は異なりますが、特に『「自然環境を大切にする」まちづくり』、『「安全・安心な」まちづくり』を望んでいます。

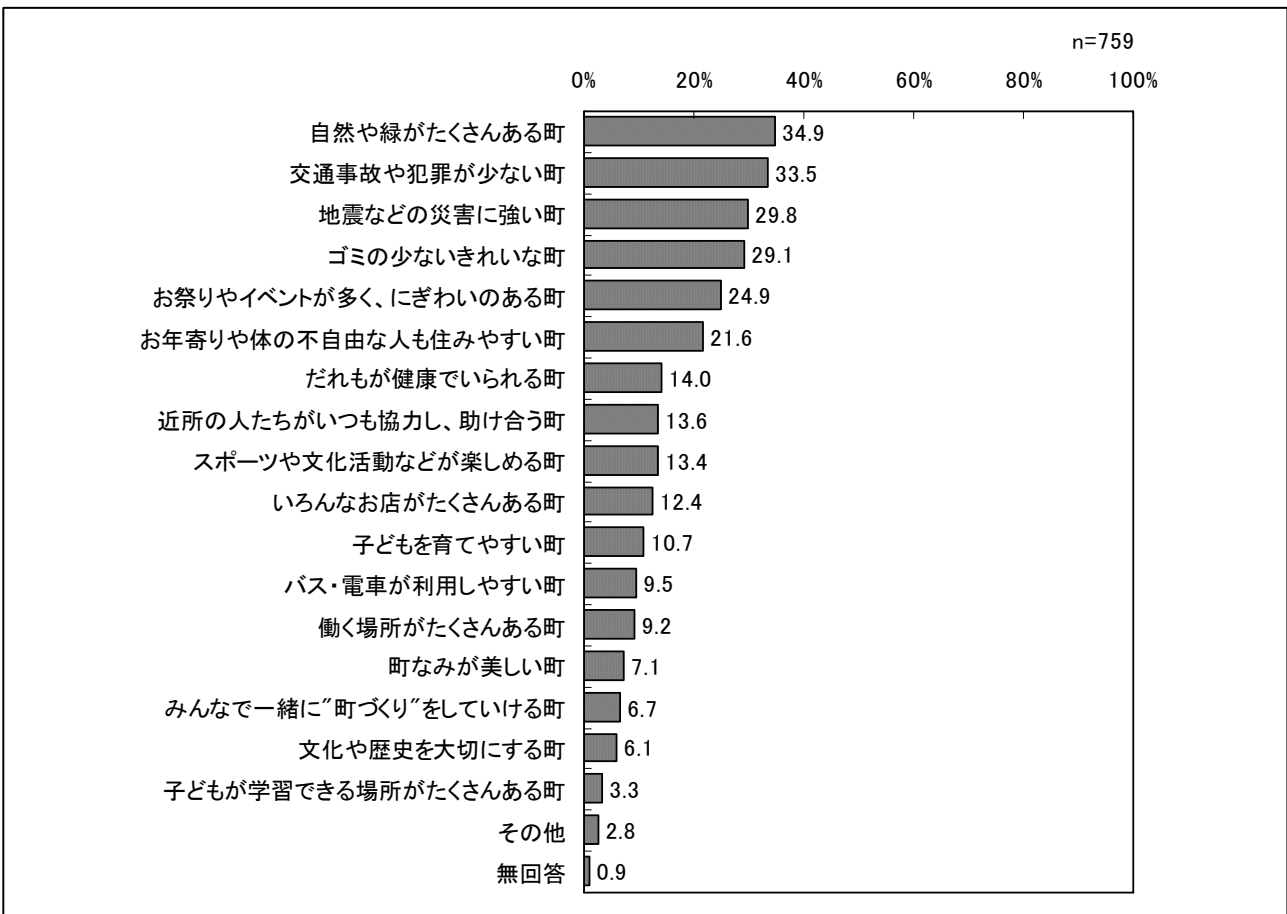


図 12 大人になった時、どんな町になっていたら良いと思うか(小・中学生)

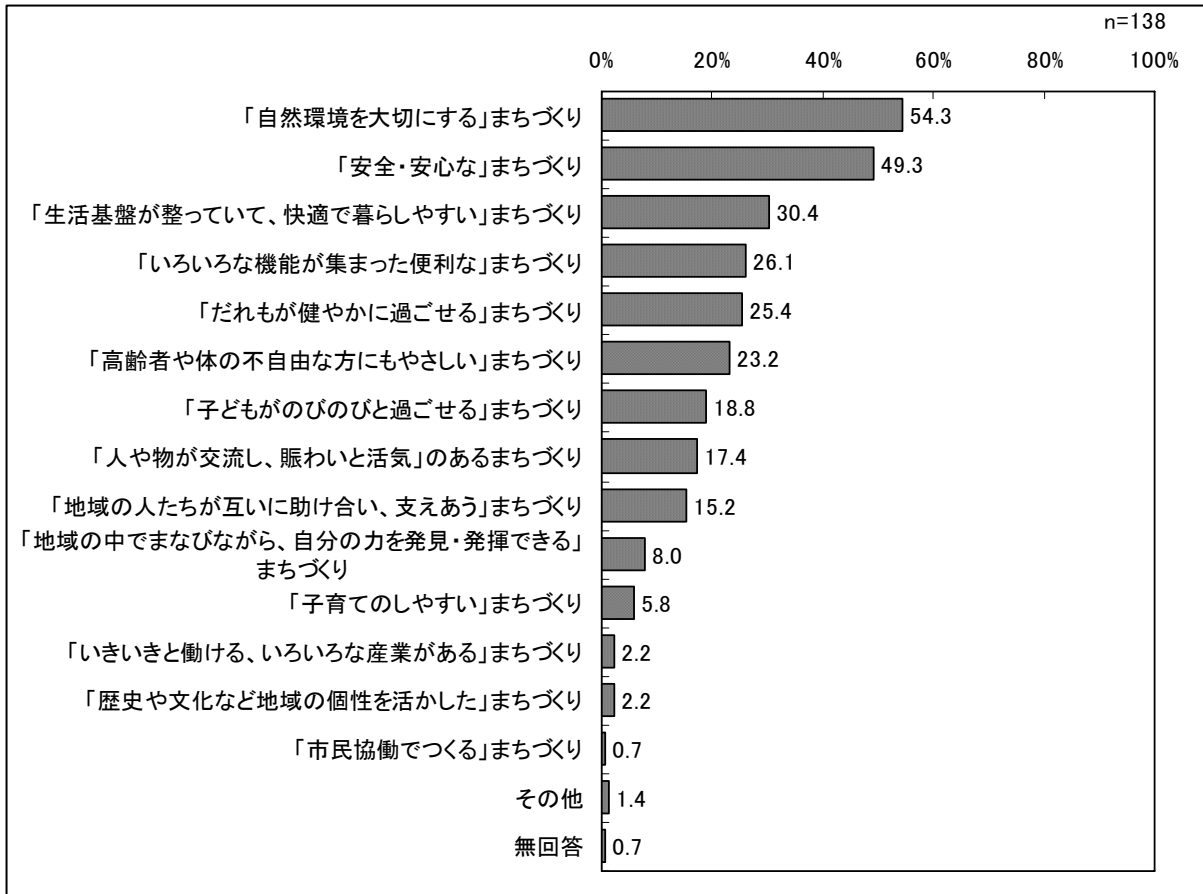


図 13 今後のまちづくりで大切にしてほしいこと(高校生)

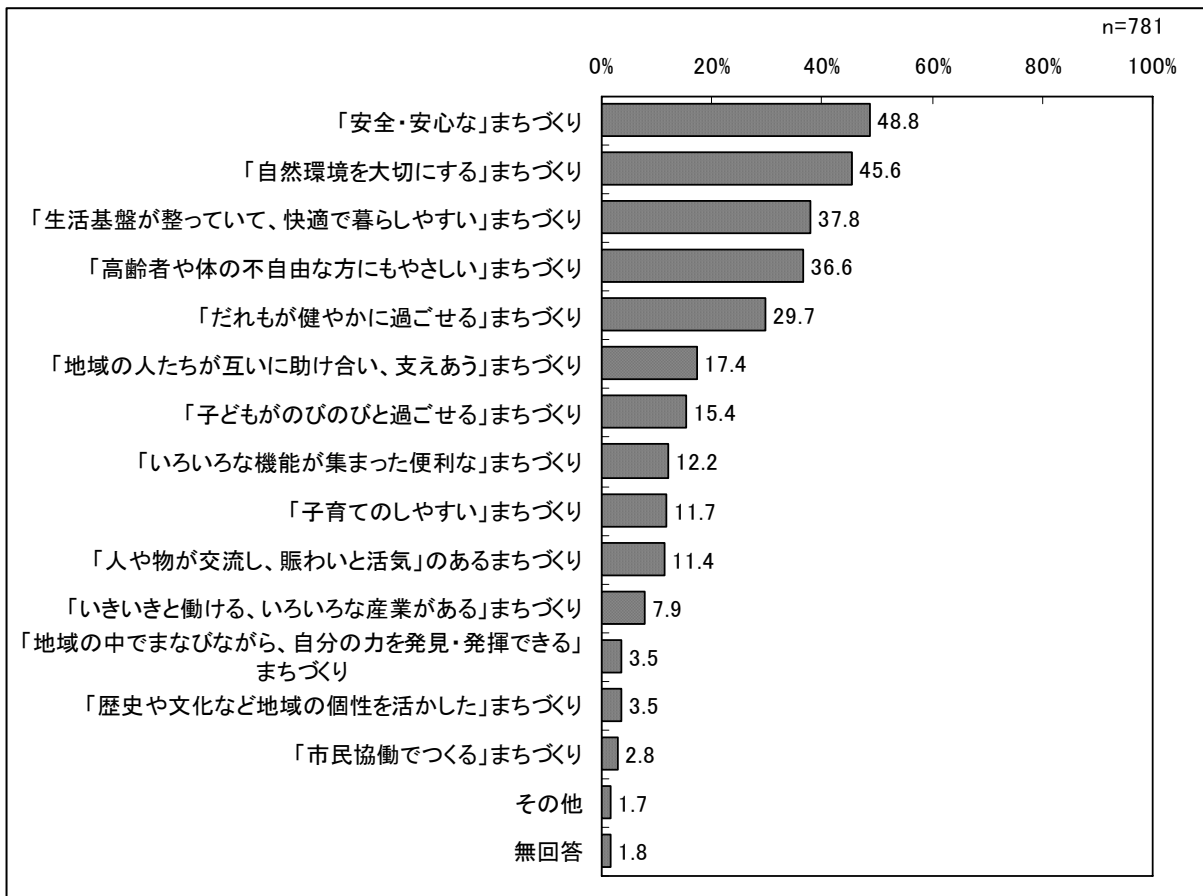


図 14 今後のまちづくりで大切にしてほしいこと(18歳以上)

■ ■ 今後の改善点として、高校生では特に「防犯対策」を挙げている ■ ■

- ・多摩市が現在、取り組んでいるまちづくり施策の「現在の満足度」と「今後の重要度」についてみると、今後、最も改善すべき点（今後の重要度が高く、現在の満足度が低い）として「防犯対策」、「学校教育の充実」、「効率的で健全な行財政運営」、「防災対策」などが挙げられています。
- ・逆に「今後の重要度」が高く「現在の満足度」も高い点として、特に「自然環境の保全・保護」が挙げられています。

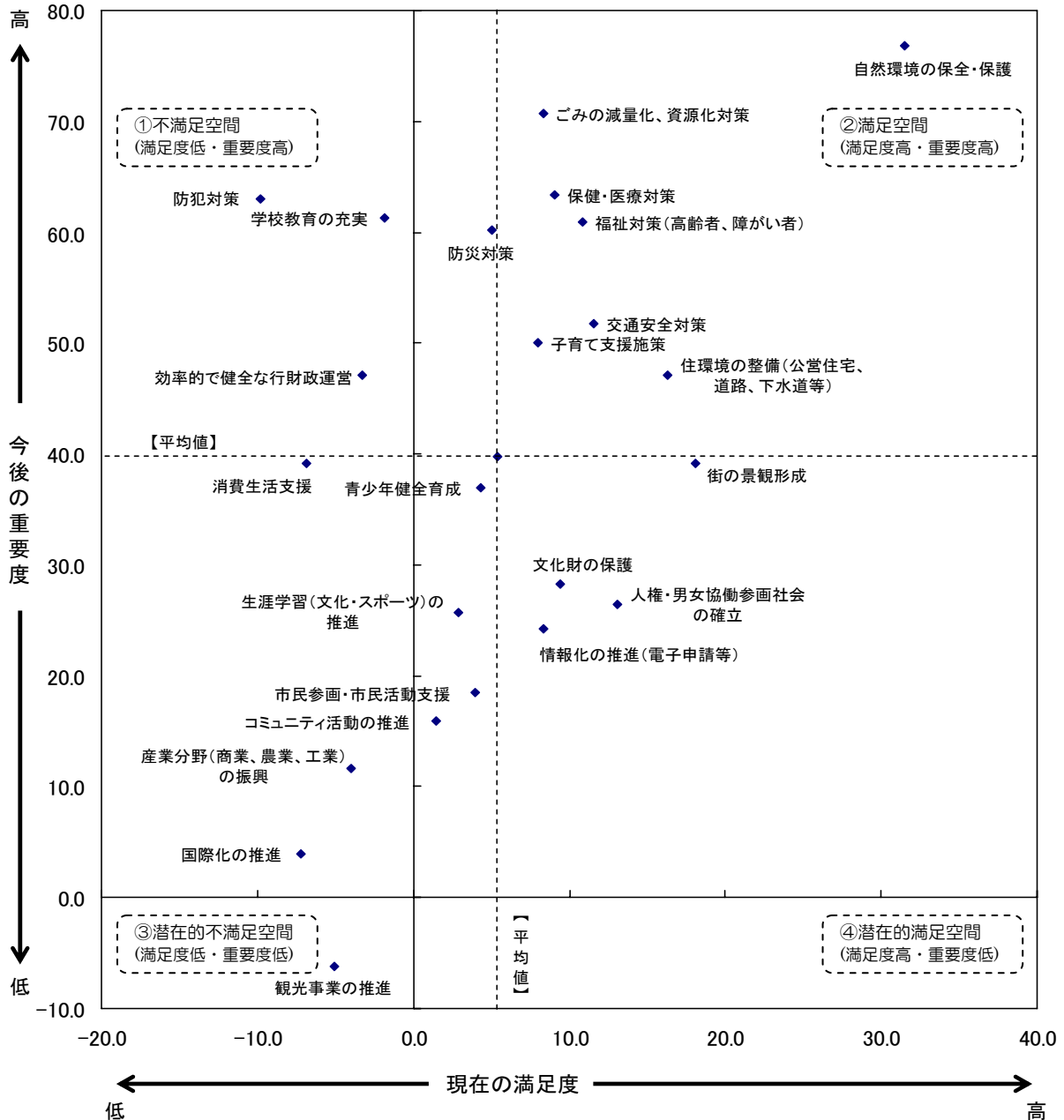


図 15 多摩市で現在取り組んでいるまちづくり施策への「満足度」と「今後の重要度」(高校生)

■■■今後の改善点として、18歳以上の市民では特に「福祉対策」を挙げている■■■

- ・「18歳以上」では、今後、最も改善すべき点（今後の重要度が高く、現在の満足度が低い）として「福祉対策（高齢者、障がい者）」、「効率的で健全な行財政運営」などが挙げられています。
- ・逆に「今後の重要度」が高く「現在の満足度」も高い点として、「自然環境の保全・保護」や「ごみの減量化、資源化対策」が挙げられています。

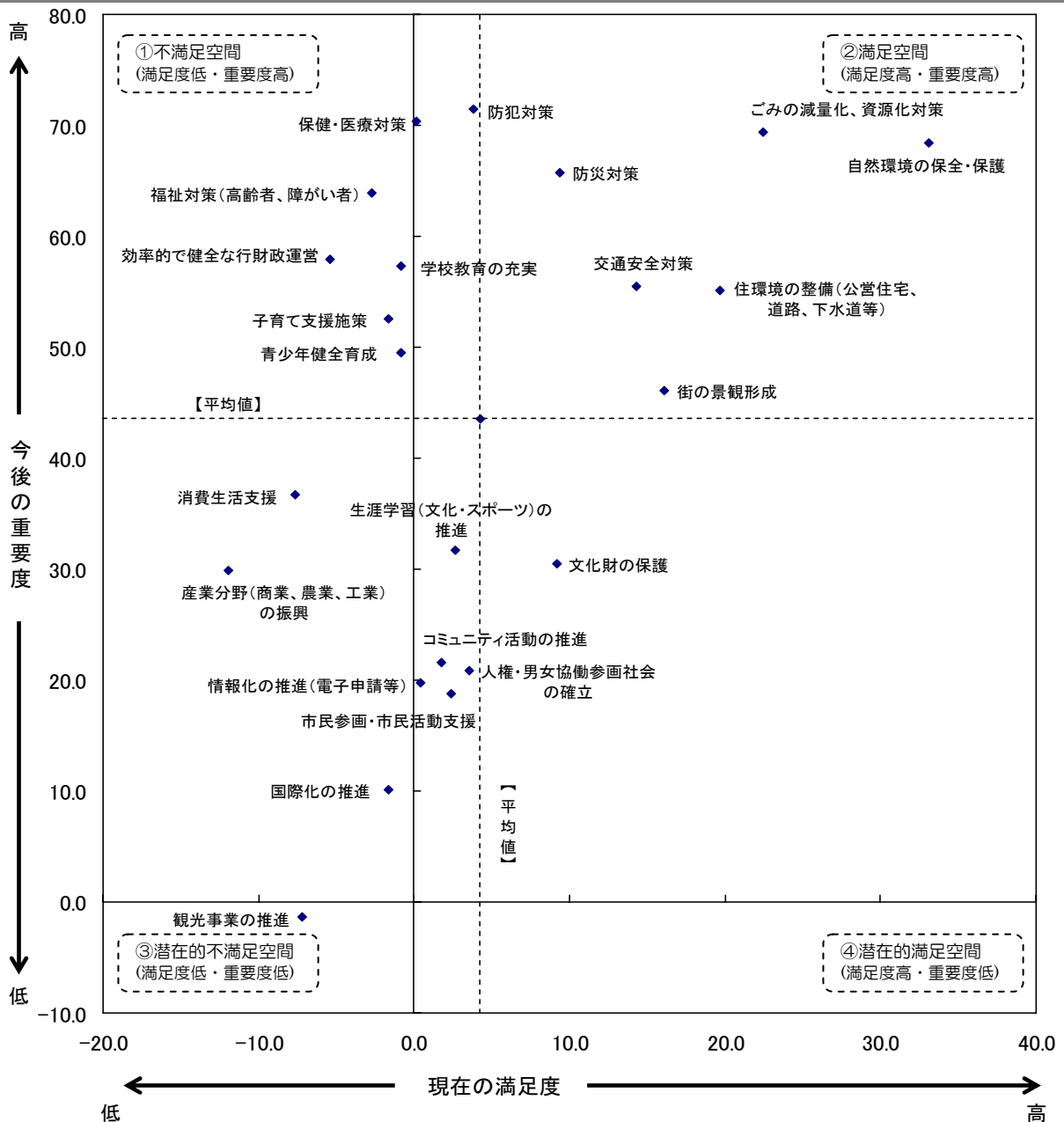


図 16 多摩市で現在取り組んでいるまちづくり施策への「満足度」と「今後の重要度」(18歳以上)

〔満足度・重要度の分析方法について〕

- 本市で取り組んでいる施策の重要度及び満足度を施策ごとに5段階で評価していただき、最高点が100点となるように施策ごとに得点化をしました。
- 具体的には、満足度では、「満足している」を1点、「まあ満足している」を0.5点、「どちらとも言えない」を0点、「やや不満である」を-0.5点、「不満である」を-1点とし、それぞれ項目に回答した人数に点数を掛け、足した上で、回答者数で除し100を掛けています。全ての回答者が「満足している」と回答していれば、100点となります。
- その上で、満足度を横軸に、重要度を縦軸にとって23項目の回答結果をプロットしています。
- 23項目の重要度と満足度のそれぞれの平均値によって、4つのグループに分け、「①不満足空間」不満足度も重要度も高い空間から、「④潜在的満足空間」満足度も重要度も低い空間）重要度・満足度の現状を分析しています。

こんなまちにしたい！多摩市の未来 第五次多摩市総合計画基本構想の策定に向けて 市民ワークショップが開催されました！

平成 23 年度からスタートする第五次多摩市総合計画基本構想の策定にあたり、必要な将来都市像を考えていただくため、昨年 12 月 20 日（土）ベルブ永山 5 階ホールにて、市民ワークショップを開催しました。

本ワークショップでは、様々な世代から幅広くご意見をいただくため、16 歳以上 80 歳未満の市民 2,000 名を無作為で選び、ご案内した方の中からさらに抽選で参加者を決めさせていただきました。

当日は、諸事情により欠席された方もおられましたが、最年少は 18 歳、最年長は 79 歳と、実に幅広い世代の方 36 名が集まり、6 人構成の 6 グループによる活発なワークショップが行われました。



～ 当日のプログラム ～

時間（午前）	内容	時間（午後）	内容
9:00～ 9:30	受付	13:00～13:45	情報提供「大西達也氏(日本政策投資銀行地域振興部課長)による地域づくり実例について」講演
9:30～ 9:45	主催者挨拶	13:45～15:00	ワークショップ「強みと弱みを踏まえた多摩市の目指すべきまちの姿＜将来都市像＞について」
9:45～10:00	情報提供「総合計画の概要について」の説明	15:00～15:10	休憩
10:00～11:05	ワークショップ「多摩市の強み(良い点)と弱み(改善すべき点)について」	15:10～15:45	グループ発表
11:05～11:15	休憩	15:45～15:55	投票
11:15～11:50	グループ発表	15:55～16:05	発表準備
11:50～12:00	情報提供「職員ワーキングチームの検討結果について」発表	16:05～16:10	投票結果発表
12:00～13:00	昼食	16:10～16:20	閉会挨拶
		16:20	閉会

午前のテーマは「多摩市の強み(良い点)と弱み(改善すべき点)について」で、初対面どうしの市民が集まった中では、果たして議論がスムーズに進むかどうか心配でした。

しかし、こうした市民討議のサポート役に経験のある学生たちが、グループに1名ずつお世話係となってついてくれたおかげで、どのグループも議論が円滑に進みました。

そこで出た結果は次のとおりです。

A班

【多摩市の強み】

- ・自然環境が良い。
- ・地域のグループに参加しやすい。
- ・都市環境が良い。
- ・イベントが多い。
- ・駅前で購入できる。
- ・治安が良い。

【多摩市の弱み】

- ・税金が高い！
- ・少子化
- ・施設（電灯）
- ・歩きタバコの取締りが弱い
- ・市全体の祭りが少ない

B班

【多摩市の強み】

- ・自然環境が良い（緑が多く空気が良い）
- ・道路が整備されている
- ・相対的に財政力がある（現在は！）
- ・交通の便の良さ
- ・住環境が良い（物価）

【多摩市の弱み】

- ・少子高齢化による人口減
- ・福祉行政の充実を乞う
- ・行政ムダ コストカット不足
- ・企業が少ない（若者の働く場所がない）
- ・道路の案内板が少ない

C班

【多摩市の強み】

- ・都市のインフラが充実している
- ・自然環境とバランスが良い
- ・都心へのアクセスが良い

【多摩市の弱み】

- ・少子高齢化に対する福祉対策が弱い
- ・都市ガス、CATVなどの整備が不十分
- ・軽犯罪増加の懸念がある

D班

【多摩市の強み】

- ・緑の多さ、自然が残っていて環境が良い
- ・子育て環境は良く、少子化が他に比べ進んでない
- ・災害に強い
- ・防犯体制が良い
- ・道路整備がされつつある

【多摩市の弱み】

- ・生産年齢増の流出
- ・教育機関の充実（一貫教育）
- ・坂道、段差、階段などが多い
- ・マスコミ対策（イメージアップ）、PR
- ・道路環境の整備

E班

【多摩市の強み】

- ・緑が多いまち
- ・道路が広い
- ・史蹟が残るまち
- ・買物が便利

【多摩市の弱み】

- ・坂が多い
- ・建物のバリアフリー化不十分
- ・近隣との交流が不足
- ・子どもが少ない
- ・行政の呼びかけが弱い

F班

【多摩市の強み】

- ・公園、自然緑地が多く、自然が豊か
- ・団塊世代が多く、今後は活用できるので、市の発展に生かしたい
- ・交通の便が良い（小田急、京王、その他）
- ・工場等が少ないので住環境が良い

【多摩市の弱み】

- ・多摩ニュータウンの過疎化
- ・団塊世代の定年退職により税収が減る
- ・子どもが減って、学校が少なくなり不便
- ・南北の交通の便が悪い
- ・企業が少ないので、働く所が少ない（若い人がこない）



「多摩市の目指すべき将来の姿(将来都市像)について」

午後のテーマは「強み(良い点)と弱み(改善すべき点)を踏まえた多摩市の目指すべき将来の姿<将来都市像>について」で、午前中の議論が白熱したおかげで、だいぶ打ち解けた雰囲気となりました。

こうした楽しく和気あいあいとした中で、全員が自由に発言をし、そこで出たイメージを言葉としてまとめる作業が着々と進められました。

そこで出た結果は次のとおりです。

A班

- ・教育立市 (IT・インターネット利用)
- ・企業誘致 (災害に強い→IT・金融 子育て支援充実へ)
- ・再生 new town
(200年計画 ニュータウンは30~40年で作りかえられる)



B班

- ・福祉と医療を大切にする学園都市 多摩
- ・防災・防犯に強い安全な街多摩
- ・若者に魅力ある企業誘致都市 多摩 (衛生的な企業)



C班

- ・若者の地域貢献活動をみんなで応援する多摩市
- ・幸せな三世代共存を実現できる街 多摩市

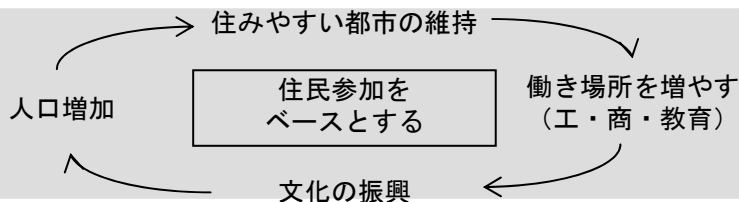
D班

- ・三世代が豊かな緑の中で生活できる街
- ・緑豊かな街!! 三世代がいきいき暮らす



E班

- ・にぎやかで楽しく集う町



F班

- ・環(わ)のまち (人と人・自然と人)
- ・安全で安心して暮らせる街
- ・創造するまち

将来都市像について参加者全員による投票(1人につき3票)を行った結果、得票の多かったものは次のとおりです。

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1位「福祉と医療を大切にする学園都市 多摩」 | 17票 |
| 「若者の地域貢献活動をみんなで応援する多摩市」 | 17票 |
| 3位「三世代が豊かな緑の中で生活できる街」 | 13票 |
| 「環(わ)のまち(人と人・自然と人)」 | 13票 |

大学生の考える「魅力のあるまちの姿」 第五次多摩市総合計画基本構想の策定に向けて 大学生から意見をいただきました！

多摩市では、平成 23 年度からスタートする第五次多摩市総合計画基本構想の策定にあたり、必要な将来都市像を考えていただくため、平成 21 年 3 月 28 日（土）パルテノン多摩 4 階学習室にて、大学生からの意見の聴き取り事業を実施しました。

本事業では、多摩市にある大学及び近隣の大学生 19 名に参加していただき、6～7 人構成の 3 グループによるワークショップ形式で行われ、若者らしさが出た楽しい議論の場となりました。



～ 当日のプログラム ～



各班でのワークショップの内容を模造紙で整理し、発表していました。

時間	内容
13:00～13:10	受付
13:10～13:15	挨拶 趣旨とプログラム説明
13:15～13:35	自己紹介
13:35～13:55	情報提供 「多摩市の現状」
13:55～14:00	ワークショップの進め方について
14:00～15:00	〔ワークショップ 1〕 「若者が住み続けられる魅力のあるまちとはどんなまちか？」
15:00～15:15	グループ発表
15:15～15:25	一休憩
15:25～16:25	〔ワークショップ 2〕 「魅力あるまちにするには市民（わたし）は何ができるか？行政は何をやらなければならないか？」
16:25～16:40	グループ発表
16:40～17:00	講評と挨拶



「若者が住み続けられる魅力のあるまち」とはどんなまちか？

第一部のテーマは、今の大学生から見て、将来のまちの姿として、「『若者が住み続けられる魅力のあるまち』とはどんなまちか？」についてでした。

最初は、緊張した雰囲気でしたが、若いパワーで、白熱した議論をすることで、だいぶ打ち解けた雰囲気となりました。

そこで出た結果は次のとおりです。※第一部での発表内容を要約して掲載しています。

A班

- ◆若者が住み続けられる魅力あるまちとして、カラオケや居酒屋などの遊べる場所があると良いと思います。また、施設が駅周辺に集中しているので、大学の近くにあると良いという意見もありました。さらに、花火やバーベキューができる公園があると良いと思います。
- ◆帰りがけに遊べるまちとして、駅の高架下にスポーツができる場所があると、仕事の終わりや学校帰りに気楽に寄って遊ぶことができるので良いと思います。
- ◆大学生が住みやすいまちとして、キレイなまちが良いと思います。それと絡んで、若者が住みやすいまちとして、コンビニがもっとあると便利だと思います。
- ◆市内の交通が、京王線と小田急線の横の繋がりが、多摩モノレールで縦の繋がりがありますが、それ以外のアクセス条件が悪いので、もう少し、市内のアクセスが便利だと良いと思います。
- ◆経済的な負担の少ないまちが良いと思います。具体的には、家賃が安い。あと、農業体験や、ボランティア活動を条件に市が奨学金を提供すれば、お互いに良いと思います。また、アルバイトをする場所が増えれば、さらに、経済的な負担も少なくなると思います。

B班

- ◆僕達、今日、集まっている人達も含め、大学生が多いからこそ、学生に期待されていることが多いと思います。学生同士の交流もそうですけど、大学に入学して多摩市に来た方、社会人になって多摩に来られた方々などの転入者の受け入れ体制がまだ整っていないと思います。また、転入された方に多摩市を好きにさせるという気持ちをとっても大切にしたいと思います。
- ◆こどもまつりやお年寄りのウォーキング大会など、小さい子やお年寄りといったターゲットを絞った幅の狭い行事しかやっていないと思うので、これから多世代への広がりのある行事をつくっていききたいと思います。そうすることで、交流の場をどんどん私達でつくっていききたいと思います。あと、学校跡地が多くあるということで、そういった建物を利用して、学生同士の交流の場にしたいと思います。
- ◆宿泊施設が足りないという問題もあがったので、どんどん私達が住めるような、新しい人が住めるような条件を整えていくことが大切だという結論に達しました。

C班

- ◆若者が住み続けられる魅力あるまちとして、若者にとって住んでいてすごく楽しいまちであること。家族（子ども）ができた時に継続して生活していけること。この2つの要素があるまちにしたいと話し合いました。
- ◆若者が住んで楽しいまちとして、レジャー施設の充実、交通の利便性が高い、買物が一箇所で済むなどの意見がありました。学生は車がなく、市の交通の便が悪いので、そういう人達に向けてより良いまちにしていきたいと考えました。
- ◆継続して住んでもらうには、学生が就職して多摩市を離れることは仕方ありません。しかし、一度離れても、家族ができて移住しようとなった時に、多摩市に帰っておいでと言えるようなまちにしたいと話し合いました。
- ◆そのためには、子育て環境の充実が必要となります。例えば、世代にあった遊び場がある、豊かな自然を活かした環境づくりするなど。そして、NPO、行政、学生が連携して、子育てをしやすい環境をつくるのが住み続けられる魅力のあるまちではないかと考えます。

第二部のテーマは、「魅力あるまちにするには、市民(わたし)は何かができるか？行政は何をやらなければならないか？」についてでした。また、最後に、多摩市の目指すべき将来の姿を一言で表す「キャッチコピー」を一つ出してもらいました。楽しく和気あいあいとした中で、全員が積極的に発言をし、そこで出たイメージを言葉としてまとめる作業が着々と進められました。

そこで出た結果は次のとおりです。※第二部での発表内容を要約して掲載しています。

A班

- ◇魅力あるまちにするために、市民ができること、行政ができること、市民と行政が両方、関わらないとできないことに分けて話し合いました。
- ◇行政ができることとして、高架下にフットサルなどのスポーツができる場所をつくる、空いている学校に保育園をつくる、という意見がありました。
- ◇次に、市民ができることとして、ボランティアや高齢者の話し相手になることという意見がありました。これは、行政が高齢者ともっと交流を深めるといってもできないと思うので、私達市民が高齢者の話し相手になる必要があると考えました。
- ◇市民と行政の両方が関わることとして、市民のスポーツ大会や公開講座などがあります。行政がスポーツ大会の企画を立てても、市民の関わり、交流がなければスポーツ大会はできません。また、行政が公開講座を開いても、市民の交流がなければ、公開講座はできないと考えました。
- ◇このように市民と行政の交流を深めることが非常に大事なのではないかと考えました。多摩市が目指すべき将来の姿として、市民と行政の交流をもっと深めていくことが必要となります。

キャッチコピー 『心のベッタウン多摩』

B班

- ◇やはり、転入者の人にすっというて欲しいという思いがあります。そのためには、行政には機会の提供をしていただく。例えば、今日のワークショップを通じて、知らない人達と出会い、ネットワークが新たにできたかなと思います。そういった機会の提供をしていただきたいと思います。
- ◇それと同時に、市民に参加をしてもらう。既存の交流の場と、これからの交流の場を考えてみました。既存のものでは、ハロウィンパーティーやこどもまつりなどがあるので、そういったものに参加します。これからのものとして大誕生日会を実施してはということがあげられました。あとは、運営に関わること。とりわけ大学生が関わることで、地域の活性化に繋がるのではという意見があげられました。
- ◇また、市民と行政を繋ぐために、調整役が必要になります。そういったところで、大学の研究所などとこれから連携を深めていけば、調整役が大変なことは重々分かっているのですが、活性化ができると思います。

キャッチコピー 『あっ 好きかもっ 多摩』

C班

- ◇魅力あるまちにするために、行政として、日本一の一大福祉施設をつくることを考えました。施設内にボランティア養成施設を設立し、ボランティアを希望する若者を集めることで、若者を増やします。さらに、若者から高齢者の方まで交流できる場として、スポーツの一大施設をつくれば、人口も増え世代間をこえた交流もできます。
- ◇多摩市をもっと宣伝するために、ドラマのロケなどが色々行われているところで、地域の大学と提携して、例えば、大学生でメディア関係の仕事を希望している人、そういう人達にPRの場を与えて、もっと多摩市を積極的にアピールしていけば良いと思います。
- ◇働く人のために、その人達が暮らすのに対して、援助金を出すなど多摩市に住んでもらうための援助が必要だと思います。
- ◇市民がやることとしては、ボランティアの積極的な参加などが必要だと思います。多摩市の長所を口コミしていく。あと、市民が市内でお金を稼げば、市民税などで市は潤うのではないかと考えたのと、市民が市と連携して交流を深めていけば良いのではないかと考えています。

キャッチコピー 『ふぁみりーな 暮らしを しえんします TAMA』

※「ふ・く・し」であいうえお作文を作成しました。

「魅力あるまちにするためには、市民（わたし）は何ができるのか？
行政は何をやらなければならないか？」

当日の様子



◆第一部では「若者が住み続けられる魅力のあるまちとはどんなまちか?」、第二部では「魅力あるまちにするには市民(わたし)は何ができるか? 行政は何をやらなければならないか?」について、自分の思いをポストイットに書き出しました。



◆自分の思いを発表するとともに、グループ内で意見交換し、模造紙上で班としての考えをまとめていきます。



◆さあ、発表です…。3班の発表後、質問タイムを設け、活発な意見交換が交わされました。



◆専門スタッフの方のアドバイスを適宜受けながら、班としての考えをさらに、充実していきます。



4

市民団体提案実施結果のあらまし

1-1 実施の概要

新しい基本構想の策定にあたり、「多摩市の強み・弱み」、「多摩市の目指すまちの姿」、「まちづくりの理念・基本姿勢」について、市民の意見を聞き、その声を基本構想に反映させるため、市民団体提案を実施しました。

(1) 対象者

市内の2人以上で構成する団体（家族、友人、自治会、サークル、学校、企業等）

(2) 意見提出方法

参考資料に示す様式「第五次多摩市総合計画基本構想策定にかかわる市民団体提案 提案書」に記入し提出

※様式に書ききれない場合は、別紙としてA4版5ページほどの添付を認める。

(3) 受付期間

平成21年2月2日（月）～平成21年2月17日（火）

※ただし郵送の場合は消印有効

(4) 周知体制

・ 広報等

たま広報、公式ホームページ、市民協働NEWS、多摩市市民活動情報検索サイト

・ 提案書設置場所

企画課、市内各図書館、行政資料室、市民活動情報センター

※平成20年12月から周知を実施

(5) 提出方法

・ 直接持参（企画課）

・ 郵送

・ ファクシミリ

・ 応募専用フォーム（公式ホームページ）

1-2 提案団体の概要

- ・ 提案書については、計 22 団体からの提出がありました。
- ・ 提案団体の概要を図 17 に示します。「家族」からの提案が最も多く 14 団体、次いで「サークル」から 5 団体、「自治会・管理組合」から 2 団体、「NPO」から 1 団体の提案がありました。
- ・ 「NPO」、「サークル」については「まちづくり」に関する活動分野が多くなっています。

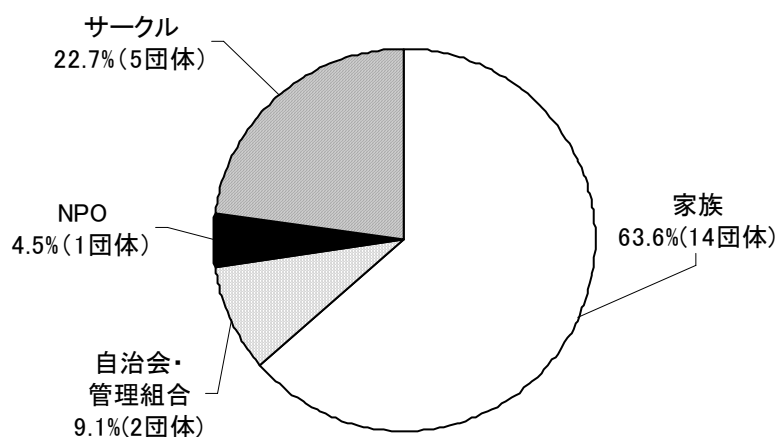


図 17 提案団体の概要

表 2 「NPO」、「サークル」の活動分野の概要

区分	活動分野
NPO	まちづくり
サークル	まちづくり
	まちづくり
	まちづくり、学術・文化・芸術、環境の保全、男女共同参画、その他
	社会教育
	スポーツ、子どもの健全育成

1-3 提案書の概要

以下に提案書の主な意見を、項目別に類型化し、整理した結果を示します。

(1) 多摩市の強み・弱み

①多摩市の強み

・多摩市の強みに関しては、「自然環境と住環境の調和」に関する意見が最も多く、次いで「良好な都市基盤の整備状況」に関する意見が多くなっています。

項目	内容
自然環境と住環境の調和 (14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境とニュータウン ・多摩市の環境に恵まれた小、中学校 ・自然が豊富で落ち着いた雰囲気住環境 ・恵まれた自然環境（緑、日照、空気） ・豊かな緑 ・自然が残っていて緑の多い所 ・自然環境とすべてのバランスの良さ ・緑が多く空気が良い ・樹木を多く残し、学校・病院が近くにあり住居環境が大変良い ・みどり・公園・オゾンがおいしい ・自然と団地が調和している ・自然環境の良さ ・緑豊かで住環境に適し大変住みやすい ・豊富な緑と空気と知縁関係と住み替え自由
良好な都市基盤の整備状況 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した都市基盤（道路、下水道、公園） ・歩車分離 ・都市計画に基づいた整備された環境 ・町並みの美しさ ・聖蹟桜ヶ丘・多摩センター・永山等の重点拠点の開発・利便性の高さ（商業施設） ・巨大な能力の焼却施設があり、隣接の市と共同利用をしている ・計画都市の生活環境ハード面の充実 ・計画的な街づくり
人材の豊富さ (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材が豊富（高学歴、NPO活動） ・知的人材が豊かなこと ・市民に市民力がある
教育環境の良さ	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺に大学が多くあり、教育環境が高い。

②多摩市の弱み

・多摩市の弱みに関しては、「高齢化の進展」「都市基盤の脆弱性」「行財政運営」に関する意見が最も多く、次いで「地域コミュニティの低下」に関する意見が多くなっています。

項目	内容
高齢化の進展 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・急速な高齢化、老朽化（人、都市基盤） ・高年齢化の率の高さ ・市民の老齢化 ・活力に欠けている
都市基盤の脆弱性 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧都道の騒音、振動がすごい箇所がある ・交通の便の悪さ ・都心までの通勤時間が長さ ・坂が多い（階段も）
行財政運営 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の財政基盤が不安である ・税金の高さ ・計画性のなさ ・計画の継続性
地域コミュニティの低下 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちへの愛着が希薄（人工都市、三世代目が少ない） ・住民間のコミュニケーションが希薄 ・「近隣の支えあい・分かち合い」の自治意識の欠如
医療・福祉 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉 ・高齢者向けの特別養護老人ホーム・庶民が利用できる老人介護施設の少なさ
人材の有効活用 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的人材を活用できていないこと ・市民力を活用できていないところ
マンションの老朽化 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・建て替えをする必要のあるマンションの多さ ・分譲マンション等の大規模修繕
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用力が弱い（産業集積が少ない）
資産の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・利用されていない学校・教室が多くある、有効利用がされていない

(2) 多摩市の目指すまちの姿

・多摩市の目指すまちの姿に関しては、「医療・福祉」「安全・安心」に関する意見が最も多く、次いで「子育て」「都市基盤」「生涯学習」に関する意見が多くなっています。

項目	内容
医療・福祉 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉が充実した、安心して生活できるまち ・福祉と医療を大切にする学園都市 多摩 ・赤ちゃんからお年寄りまで明るく楽しく過ごせ、環境にやさしいまち ・子供から年寄りまでが住みよいつと感じることのできるまち ・高齢化対策が行き届いた街 ・総合病院には夜間も必ず救急専門医（心臓、脳外科、整形、産婦人科など）がいるまち ・障害者をはじめ全ての人の人権を大切にするまち ・若い人も高齢者もハンディキャップのある人も、誰もが生きがいを感じて暮らせるまち
安全・安心 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民同士、自然と挨拶が交わされるまち ・地域力のあるまち ・コミュニケーションの輪が広がって、街行く人々が気楽に挨拶できる街 ・町民同士が助け合う町 ・防災がしっかりしたまち ・犯罪のない安心なまち ・防火、防災がしっかりしたまち ・孤独死のない安心して暮らせる街
子育て (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が住みやすい町 ・子育てのまち ・教育力のあるまち（2件） ・子供達の明るい声が響き渡る街
都市基盤 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこへでも車椅子で行ける道が整備されている ・車を使用しなくてもキメ細かく交通網が整備されていて移動が可能なまち ・裏通りも整備されたまち ・団地のリニューアル
生涯学習 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統、文化、芸術を身近に感じられるまち ・文化施設、スポーツ施設、憩いの施設の充実したまち ・文化、芸術の香り高いまち ・スポーツが盛んなまち

項目	内容
協働 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と行政との協働がしっかり実践されているまち ・市民力と知を生かす元気な都市 多摩～市民の知をもととする住みよい 活気あるまち 多摩～ ・“知”を活かせるまち
美観・美化 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの散乱していない美しいまち ・地域清掃ボランティアによりいつもきれいなまち
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・行政・産業・学が協働活動により、楽しいまちづくり・産業まち おこしシステムを工程化し他市に誇れるまち
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を適切に維持管理したみどり豊かで住みやすい街
その他（全般） (9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・品格のあるまち ・至福を感じられるまち ・多摩市住民であることで誇りが持てるまち ・誇りを持てる住みやすいまち ・選択される「まち」 ・三世代が住めるまち ・下町風の心のふれあえる物価の安い活気ある商店街があるまち ・美しい緑、川の自然に恵まれ、きれいな空気のもと、安全安心で、元気 なお年寄りと、はつらつとした多くの子どもたちが地域の大きなイベン トに積極的に参加し、挨拶が交わされ心温かさをもった地域の絆が築か れているまち ・楽しく集う町（住みやすい都市の維持、働き場所を増やす（工、商、教 育）、文化の振興、人口増加）

(3) まちづくりの理念・基本姿勢

・まちづくりの理念・基本姿勢に関しては、「行財政運営」に関する意見が最も多く、次いで「協働」「人材活用」に関する意見が多くなっています。

項目	内容
行財政運営 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な市財政運営と効果的な支出 ・市の予算の使い方を住民本意に ・最優先順位を決めて決断と実行 ・今の職場で何を実行すべきかという視点で捉まえ創意工夫を重ね、誇りを持って着実に実行する ・徹底的な行政改革と議会改革を民間なみのコスト意識から大削減
協働 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市民ひとりひとりが、他人を思いやる気持ちを持ち、市民としてしっかりと義務を果たす ・「物や金銭」ではなく「こころが通い合う」施策づくり ・市民として何が求められ、何をすべきか理解し、夢と思いやりの心を持ち、主体的に実践に努める ・市民と行政がもっとコミュニケーション能力を高め活気ある元気なまちを作る
人材活用 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に老人の力や知恵が発揮出来るようなシステム作り ・老人の知恵を遊びながら子供と一緒に活かす町づくり ・市民の豊かな人材を最大限に活かす施策をたて、その経験や蓄積を伝えることにより、世代を超えて、新たな活動・生きがいへと繋げ、生き生きとしたまちづくりをしていく ・市民力、人的資源力を有効、適切に活用
自然環境の保全 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩ニュータウンの特性（緑と公園）を生かした町造り ・緑の多い市を今後も継続 ・健康な田園都市の姿を定着させていく
子育て・教育環境の充実 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成育に有利な生活環境と教育環境 ・大学が多いという特徴を生かし、「住民に対する恩恵」になる多摩市との提携 ・生産年齢人口の維持向上
計画の見直し (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩ニュータウンのコンセプトであった職住近接のまちづくりの推進 ・多摩ニュータウンの建設理念の確認と反省 ・きちんとしたコンセプトの形成
その他 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩市自治基本条例の精神・内容・手法の周知徹底 ・新産業拠点の形成 ・武蔵野の原風景を残すという姿勢。歴史を踏まえたまちづくり ・定住意識の高さの維持

印刷物番号

21-16

第五次多摩市総合計画基本構想策定にかかわる市民参画事業

実施結果のあらまし

—平成20年度—

平成21年（2009年）8月発行

発行・編集 多摩市企画政策部企画課

〒206-8666 東京都多摩市関戸六丁目12番地1

電話 042-375-8111（代表）

ホームページ <http://www.city.tama.lg.jp/>

頒布価格100円
